KOBE UNIVERSITY

GRADUATE SCHOOL OF HUMAN DEVELOPMENT AND ENVIRONMENT

神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 2019

WHAT IS HUMAN DEVELOPMENT ?

人の発達とは
人の発達を支える環境とは

人間発達環境学研究科では、人の一生を通じた発達と、その発達を支える環境を対象とした教育研究を行っています。複雑な諸課題を抱く現代社会において、人がどのように潜在的に持つ能力を開花させるのか、そして、そのためにどのような環境が必要なのかについて、原理的、実践的に研究し、人のよりよい生（well-being）の実現を目指して「知」の構築を行っていきます。

研究科の構成

人間発達環境学研究科は、以下の専攻と附属施設で構成されています。

人間発達専攻

こころ系講座	表現系講座	からだ系講座	学び系講座
心理発達基礎 / 健康発達	表現創造 / 表現文化	身体行動 / 行動発達	教育科学 / 子ども発達 / 発達支援

前期課程の特別な履修コース　■臨床心理学コース　■発達支援1年履修コース

人間環境学専攻

環境基礎論講座	環境形成論講座	環境先端科学講座
自然環境 / 数理情報環境	生活環境 / 社会環境	（後期課程の連携講座）

前期課程の特別なサブコース　■ESDサブコース

発達支援インスティテュート

ヒューマン・コミュニティ創成研究センター / 心理教育相談室 / サイエンスショップ / 教育連携推進室 / アクティブエイジング研究センター

Contents

研究科の構成 ---------- 2
沿革と入学者受け入れ方針 ---------- 4
研究科長からのメッセージ ---------- 5
研究科の教育 ---------- 6
大学院生の研究活動 ---------- 8
活躍する修了生 ---------- 11
人間発達専攻 ---------- 12
人間環境学専攻 ---------- 18
社会貢献・地域貢献（発達支援インスティテュート） ---------- 22
国際学術交流 ---------- 24
入試日程・データ ---------- 26
アクセス ---------- 27

History 沿革

1874年10月　兵庫県師範伝習所設置
1877年 1月　神戸師範学校と改称
1886年 4月　兵庫県尋常師範学校と改称
1898年 4月　兵庫県師範学校と改称
1900年 2月　姫路に兵庫県第二師範学校を設置
1900年 4月　兵庫県師範学校を兵庫県第一師範学校と改称
1901年 8月　兵庫県第一師範学校を兵庫県御影師範学校と改称
　　兵庫県第二師範学校を兵庫県姫路師範学校と改称
1902年 2月　兵庫県明石女子師範学校設置
1919年 4月　兵庫県立農学校甲種別科設置
1923年 3月　兵庫県立農業補習学校教員養成所として兵庫県立農学校甲種別科が独立
1935年 6月　兵庫県立農業補習学校教員養成所を兵庫県立青年学校教員養成所と改称
1936年 4月　兵庫県御影師範学校と兵庫県姫路師範学校を兵庫県師範学校として統合
1943年 4月　兵庫師範学校として兵庫県師範学校と兵庫県明石女子師範学校を包括し官立移管
1944年 4月　兵庫青年師範学校として兵庫県立青年学校教員養成所を官立移管
1949年 5月　兵庫師範学校と兵庫青年師範学校を統合し神戸大学教育学部として発足
1965年 4月　神戸大学教育専攻科を設置
1981年 4月　神戸大学大学院教育学研究科修士課程を設置
1992年10月　神戸大学教育学部を改組し、神戸大学発達科学部を設置
1997年 4月　神戸大学発達科学部と神戸大学国際文化学部を基礎とした
　　神戸大学大学院総合人間科学研究科修士課程を設置
1999年 4月　神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程を設置
2005年 4月　神戸大学大学院総合人間科学研究科発達支援インスティテュートを設置
2007年 4月　神戸大学大学院総合人間科学研究科を改組し、
　　神戸大学大学院人間発達環境学研究科を設置
2013年 4月　神戸大学大学院人間発達環境学研究科の4専攻（心身発達専攻、教育・学習専攻、
　　人間行動専攻、人間表現専攻）を1専攻（人間発達専攻）に改組
2017年 4月　神戸大学発達科学部と神戸大学国際文化学部を再編統合し、国際人間科学部を設置

Admissions Policy 入学者受け入れ方針

神戸大学のアドミッション・ポリシー

神戸大学は、世界に開かれた国際都市神戸に立地する大学として、国際的で先端的な研究・教育の拠点になることを目指しています。これまで人類が築いてきた学問を継承するとともに、不断の努力を傾注して新しい知を創造し、人類社会の発展に貢献しようとする次のような学生を求めています。

- 進取の気性に富み、人間と自然を愛する学生
- 旺盛な学習意欲をもち、新しい課題に積極的に取り組もうとする学生
- 常に視野を広め、主体的に考える姿勢をもった学生
- コミュニケーション能力を高め、異なる考え方や文化を尊重する学生

人間発達環境学研究科のアドミッション・ポリシー

人間発達環境学研究科は、人間の発達及びそれを取り巻く環境に関わる基礎的並びに応用的・実践的な教育研究活動に主体的に参加し、これを推進する指導的役割を担える高度な専門的能力を有する人材の養成を目指しています。そのため、次のような資質・能力を持った学生を積極的に受け入れます。

- 高度な研究を遂行していくための基礎的な資質・能力
- 人間の発達や環境に関する諸問題に対する鋭敏な感受性と深い専門知識にもとづいて新しい課題を析出していく資質・能力
- 多角的かつ重層的に課題を分析・考察し、体系的に概念化と理論化を行うことができる高度な知的能力
- 現代的諸問題を解決するための具体的方策を提案し、柔軟に対応できる行動力

取得可能な学位

■ 人間発達専攻
学位：修士（学術）、修士（教育学）、博士（学術）、博士（教育学）

■ 人間環境学専攻
学位：修士（学術）、修士（理学）、博士（学術）、博士（理学）

Message from Dean

研究科長からのメッセージ

人間発達環境学研究科長
岡田 修一 教授

近年の科学技術（特に情報通信技術）の発展やグローバル化の進展は、急速に経済・社会のルールを変化させ、人々のライフスタイル、社会と人間の在り方、国家間の相互依存関係などに影響をもたらし、地球規模の様々な課題を顕在化させています。国内を見れば、少子高齢化が加速し、地域経済社会は疲弊しつつあります。このような状況では、人間の発達が阻害される可能性、すなわち一人ひとりの人間が潜在的にもつ多様な能力の発現が妨げられることが危惧されます。

私たちには、「人の発達とは何か」「人の発達を支える環境とは何か」という困難な問いと向き合い、より実践的な観点から具体的な解を導くことによって、より善き生（well-being）の実現をめざした「知」の構築が求められていると思います。

人間発達環境学研究科は、この要請に応えるため、2007年4月に設立されました。本研究科は、「ヒューマン・コミュニティ創成研究」という新たな理念を中核に、人間の発達及びそれを支える環境を対象とした発達科学に関する卓越した教育研究を実施することをミッションにしています。具体的には、人間の潜在的能力が開花するプロセスについて教育研究を行うとともに、人間を取り巻く環境について、人間の潜在的能力を開花させる観点から教育研究を行います。「ヒューマン・コミュニティ創成研究」とは、「人間的な社会（ヒューマン・コミュニティ）の創成をめざして、地域社会、行政、企業、市民などと連携しつつ、人間の発達と発達を支える環境について原理的、実践的に研究する活動の総体」を意味します。

本研究科は人間発達専攻と人間環境学専攻から成っています。人間発達専攻は、教育学、心理学、健康科学、体育・スポーツ科学、社会学、芸術学、工学等々の領域において、「人間の発達」に係る諸事象を「個人の創造的発達」と「個人の創造的発達を促す関係性」という二つの視点から総合的に捉え教育研究を行います。また、人間環境学専攻は、理学、工学、社会学、経済学、法学、農学、家政学等々の領域において、「人間の発達を支える環境」に係る諸事象を「人間の発達を促進し支援する環境要因の解明と開発」という視点から総合的に捉え教育研究を行います。

本研究科の教育研究活動には、次の3つの特色があります。

第一に、学際的・総合的であるという点です。本研究科では、異なる専門分野間の連携や複数分野での協働をとおして、複雑化・重層化する人間の発達や環境に係る様々な課題に対し、多面的・総合的・包括的な研究を推進しています。

第二に、実践的・応用的であるという点です。本研究科では、現代社会に生起する様々な問題の解決をめざし、関係者と協働しながら有効な解決方法を開発するアクションリサーチの手法を用いた研究を実施しています。特に研究科附属の発達支援インスティテュートでは、「大学と地域とを結ぶプラットフォーム」として、教育・研究・社会貢献を一体的に進めています。

第三に、国際的であるという点です。本研究科では、海外の大学との学術交流を促進するとともに、海外の学生、研究者、実践家等と課題を共有しながら調査研究や学術交流を進めるスタディツアーを積極的に実施し、教育研究の国際化を推進しています。

人間発達環境学研究科は、一人ひとりの人間のwell-beingの実現をめざし、人間の潜在的能力が開花するプロセスやそれに影響を及ぼす環境について教育研究を行う大学院です。今後の未来社会において、well-being が重要な言葉となることは疑う余地はないでしょう。私は、本研究科での教育研究の成果が、期待される未来社会へと導く羅針盤となるものと考えています。

みなさんには、柔軟性と受容性をもちながら、持続的かつ包摂的な社会の創成に向けて、私たちとともに、歩んでいただきたいと願っています。

研究科の教育

■教育の特色

博士課程前期課程

人間の発達やそれを取り巻く環境の発展に関わる基礎的あるいは応用的・実践的な教育・研究活動に対し、学生の主体的参加を促し、高度な専門的能力を備えた人材の養成をめざしています。このため、本研究科では、個々の学生が在学中のあらゆる機会を通じて知識、スキル、能力、資質とそれらの自己開発力を獲得できるよう、学生の「学び」をトータルにプロデュースし支援する体制をとっています。以下のような特色をもつ、能力開発支援型の教育プログラムを提供します。

■ 徹底した基礎的・実践的教育

研究科共通科目「特別研究I」において、文献調査法や資料収集法、フィールドワークやアクションリサーチの技法など、研究の基本的手法を修得し研究能力の基礎を固めます。さらに「特別研究II」において、研究の実際の場面に関わることで、研究遂行のための実際的手法を修得します。

■ 個々の学習課題に応える積み上げ方式の専門教育

全般的な専門力量の形成を支援するために、各専攻では専攻共通科目（人間発達専攻では「人間発達総合研究I・II」「人間発達相関研究」「人間発達研究」、人間環境学専攻では「人間環境学相関研究」）を置いているほか、個々の研究課題に応じたコースワークが可能となるように、基礎科目「特論I」、展開科目「特論演習」及び関連する専門科目から構成される、積み上げ方式のカリキュラム構成をとっています。特に「特論演習」では、スキル開発を重視します。

■ ヒューマン・コミュニティ創成のマインドを醸成する教育

研究科共通科目「ヒューマンコミュニティ創成研究」において、発達支援インスティテュート（p.22参照）を活用した産学官民協働のフィールド研究活動に積極的に参画し、それらの活動を通して、ヒューマン・コミュニティ創成のマインドを醸成します。

■ ソフトスキルや社会人基礎力の育成

研究集会、セミナー、修士論文発表会などの教育研究活動において、「参加」「運営」といった役割を担うことにより、コミュニケーション能力、ネゴシエーション能力、企画力、マネージメント能力、チームワーク力、リーダーシップ力といったソフトスキルや社会人基礎力の育成を支援します。

■ 持続可能な開発のための教育

「持続可能な開発のための教育（ESD = Education for Sustainable Development）（注）」の理論と実践について学ぶことを目的にしたESDサブコースを設置しています。本研究科のすべての学生が、主専攻に加えて選択できるコースです。環境、人権、開発、防災、経済など、多様な課題の解決について、教育の観点から考究し行動することのできる国際人の育成を目指しています。このサブコースの修了生には、「ESD Advanced Practitioner」の認証が付与されます。

（注）地球規模の環境破壊や、エネルギーや水などの資源保全の問題など、人々が現在の生活レベルを維持しつつ、次世代も含むすべての人々により質の高い生活をもたらすことができる社会づくりが重要な課題になっています。これを解決するため、国連で決議された「持続可能な開発のための教育」のことを ESD（Education for Sustainable Development）といいます。

博士課程後期課程

人間の発達やそれを取り巻く環境の発展に関わる原理的あるいは応用的・実践的な教育研究活動に対し、学生の主体的参加を促し、高度な専門的能力だけでなく、独創的で卓越した研究能力を備えた人材の養成をめざしています。そのため、本研究科では、以下の特色をもつ教育プログラムのもとで、学生が、自らの専門を深めるだけでなく、多角的かつ相対的に捉えることにより、自らの専門のアイデンティティを練り上げることができる高度な学問的能力を身につけます。

■ 専門力量を深化させる教育

さらなる専門力量の深化をめざした高度化科目（「特論II」）を展開します。

■ 実践的研究能力に磨きをかける教育

研究科共通科目「特別研究III」において、文献課題やレビュー論文の作成などを通して、国内外の研究状況を把握するための能力発展をめざします。研究科共通科目「特別研究IV」では、フィールドワークやワークショップ、研究会、プロジェクト研究などの企画・運営に参画し、研究を組織化する方法を修得します。また、国際レベルの論文作成能力を養成します。

■ 体系的な博士論文作成指導システムの提供

前期課程、後期課程の計5年間で円滑に博士論文を作成できるようにするため、複数教員による体系的な論文作成指導システム（基礎論文、予備審査論文、公開最終試験）を採用しています。

■ 実践的な教育力の開発支援

大学教員をめざす学生に対して、学部の教育実習に相当する科目「教育能力養成演習」を設置し、実践的な教育力の開発を支援します。

大学院生の研究活動

人間発達環境学研究科の学生は、人間の発達及びそれをとりまく環境に関わるそれぞれの研究課題に取り組みながら、多様な分野の研究者や学生と協働する学際的研究や実践的研究にも深く関わります。学生はこれらの研究活動を通して、現代的諸問題を解決するための具体的方策を提案し、問題に柔軟に対応出来る行動力を身につけます。本研究科に在籍する学生の様々な研究活動の例を紹介します。

大学院生のメッセージ

王 一然

人間発達専攻 こころ系講座
博士課程前期課程 2017年3月修了

青年層における インターネット依存の 問題をめぐって

私は現在、健康心理学の側面から、インターネット依存に関する研究をしています。ソーシャルメディアが普及し生活が便利になっている一方、インターネット依存は世界中で問題となっています。私は、在学中、留学生に対する在学生によるチューター制度を通して、外国の交換留学生たちのチューターになりました。この機会をきっかけに、英語を中心にして研究内容についての議論を行い、多様な学生たちが集まる学習環境の中で、自分の研究だけでなく国際社会で研究を行う際に必要となる知識やスキルについて学びました。異なった視点から研究課題に関する議論を交わすことで、自分の研究を見直し、新しい方向性に着眼することができました。今後も国を超えた研究交流を通して、グローバルな視点からインターネット依存といった問題の解決に貢献していきたいと考えています。

岡元 ひかる

人間発達専攻 表現系講座
博士課程後期課程2年

実感を伴う 発見を目指して

私は現代に登場した新しいダンス表現に注目し、「ダンスの創作・訓練における言語使用の意義」をテーマに研究を行っています。コンテンポラリーダンスすなわち同時代のダンスが主な専門領域であるため、日頃から劇場へ足を運び、ダンス訓練には身を以って参加することで、自分の実感を伴う発見を目指しています。ここには学部在籍中に実技を学び、ダンサーとして活動した経験が活きてきました。今は、イスラエル発祥の身体訓練法 GAGA の調査のための海外フィールドワークの準備を行っています。また、ベルリン自由大学留学中には、最先端のダンスや欧州の理論に触れることができました。大学では、異分野の先生方や学生と隣合わせの環境で、多角的視点を持つことの重要性を日々認識しています。

大学院生のメッセージ

木村 拓真

人間発達専攻 からだ系講座
博士課程前期課程2年

インターネットが創る 未来を研究する

現実世界とインターネットという2つの世界を持って生きている私たちが、どのような特徴を持った行動をとっているのか、社会心理学的な視点から研究しています。研究対象は不特定多数の人が他の人や組織に資金援助を行うクラウドファンディングで、運営会社と共同で研究していきます。
研究するにあたって、加齢やスポーツなど多岐にわたる分野の先生方からアドバイスをいただいたり、研究室で毎年行われる韓国へのスタディツアーでソウル大の研究者と交流することで、学際的・国際的視点を持つことが出来ました。
研究し解明するという、「まだ、誰もやったことがないこと」に取り組み、新しい価値を生み出す経験を、今後は教育者の立場として活かしていこうと考えています。

金澤 咲

人間発達専攻 学び系講座
博士課程前期課程2年

アーティスト・文化施設・ 学校間の連携における芸術教育の 意義と課題

私はアーティスト（芸術家）が美術館や文化施設を通して授業に参加する事例を研究しています。1998年以降、学習指導要領において「生きる力」が導入されたことで、文化施設やNPOなど外部機関と学校の連携による、体験活動を通した芸術教育が行われてきています。日常生活ではあまり出会うことのないアーティストが学校教育に参加することで、児童や教員、アーティストにとって相互的に有効な作用があるのではないかと考え、実際にアーティスト、児童、教師へアンケートとインタビューを実施し調査しています。
私は以前、美術館で教育普及という仕事を担当していました。アーティストと子供たちが出会うと、作品の核心をつくような発言があったり、短い期間で子供の変化が見えたり興味深い作用があると感じていました。この作用を整理し言語化したいと思い大学院に入る決意し、現在、働きながら大学院に通っております。大変な毎日ですが、研究室のみんなに支えてもらいながら自分のペースで頑張ることができています。

大学院生の研究活動

大学院生のメッセージ

勝原 光希

人間環境学専攻（自然環境）
博士課程後期課程 2年

**様々な分野の技術と
アイデアを取り込み植物の
共存機構に迫る**

なぜ世界には多種多様な生物が存在しているのか。この生物学の大問題の解明にむけ、私は道端の雑草であるツユクサの仲間を用いて植物の共存機構の研究を行っています。自身は野外での調査を専門としてきましたが、自分の知りたいことのためには異なる分野の技術やアイデアが必要になる場面に数多く出会いました。例えば、DNA情報を扱う技術や、理論モデルから数式的に生物のふるまいを解析する技法などは、その度に研究科内の他分野の教員や学生から技術や知見、実験装置を提供していただき、研究を進めてきました。“人間を取り巻く環境”という大テーマの下、多様な価値観や技術を持つ人間が集まった研究科で培われた学際的な視点や研究スタイルは、研究者を目指す自分の大きな強みになっていると感じています。

李 聡

人間環境学専攻（社会環境）
博士課程前期課程 2017年3月修了

**援助レジームに
おける新興ドナーをめぐって**

私は、中国などの新興ドナーによる途上国への援助のあり方について研究しています。国際援助の場面では、多様なアクターによる支援が乱立しており、貧困などの問題が未だに解決されていないばかりか、様々な混乱が発生しています。そこで私は、国際開発学国際関係論をベースに、アクターの間の相補性を実現し、より開発効果を高めうる援助行政のあり方を実現するにはどうしたらよいか研究をしています。
大学生活では、学業の他に「世界経済フォーラム」で会議運営のコーディネートを担当するなどの経験も積み、国際機関の職員の方々がどのように働いているかを知る経験もできました。
国際開発学を学ぶ者として、大学院の研究で培った政策分析の知見をもとに、国際機関への就職など、自分の様々な可能性を活かせる進路を考えていきたいと思います。

活躍する修了生

人間発達環境学研究科の修了生は、自身が持つ研究課題や他の研究者や学生と協働する学際的研究に取り組む中から得た、広い視野と専門性、実践的な問題解決能力を生かし、一般企業、官公庁、教育機関、NPO・NGOなど幅広いフィールドで活躍しています。社会の様々な現場で挑戦をし続ける修了生からのメッセージを紹介します。

修了生のメッセージ

小泉 和也

名城大学経済学部教員
人間発達専攻 2014年3月 後期課程修了

**新時代へ、
スポーツの可能性と
共に生きる**

在学中は成人・中高齢者の運動・スポーツについて取り組み、特に研究室全員で大会の企画、運営から実施まで携わったマスターズ甲子園では、「技を磨く・競う・称える」等といったスポーツ本来の姿を追い求めていた参加者やその参加者を全力で「支える」大会サポーターを間近で見たことで、スポーツ振興に関わる理論的な知識の習得の重要性を再認識できました。現在は名城大学に勤務しており、スポーツの実践だけではなく、生涯スポーツやスポーツボランティア、ジェロントロジースポーツに関してゼミ学生と共に理解を深める活動もしています。これからの社会、スポーツの果たす役割が様々な方面から注目され、また期待される中で、大学院での学びを活かし、その一翼を担っていきたいと考えています。

長田 克幸

三菱日立パワーシステムズ株式会社
人間環境学専攻 2016年3月 前期課程修了

**高度情報化社会に
必要とされる人間に
なるために**

現在、人間の活動はICTなしには語ることができないものとなっています。それは私が勤めている重工業メーカーでも変わりありません。私の所属する部署では、ものづくりの現場やお客様に提供する製品の開発はもちろん、サービスに対しても様々な情報やICTを駆使し、お客様の課題に応える適切なソリューションを開発することが求められています。メーカーの持つ積み重ねられたノウハウと大量のデータを組み合わせ、新たな価値を創造することは、研究と似て試行錯誤の連続です。大学院では数値計算や数式処理をテーマとした研究を行いましたが、研究を通じて身に着けた数理論理的な思考とその実践手法は、業務においても大きな武器となっています。これからも大学院での学びを確かな礎とし、社内外での自らの価値を高め、成長していきたいと思います。

※ 修了生の進路は、次のページでご覧ください。http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/node/3144

DEPARTMENT OF
HUMAN DEVELOPMENT

人間発達専攻

専攻長のメッセージ

人間発達専攻長
稲垣 成哲 教授

人間発達専攻は、多様な側面を持つ人間の発達を、総合的な視点から教育研究の対象とします。前期課程においては、人間の発達に関する実践的諸課題の解決やそれを支える新たな公共の創出に貢献する、高度専門職業人の養成を目的とします。後期課程においては、人間の発達に関する高度な専門的学識及び創造的な研究能力を持つ自立した研究者、又は研究能力に加えて、確かな教育開発力を備えた大学教員の養成を目的とします。さらに、特別な履修コース「臨床心理学コース」と「発達支援1年履修コース」を設置し、実践的職業人も養成します。本専攻では、幅広い問題関心のもとに、こころ系、表現系、からだ系、学び系という各系の方法及び視点の多様性を学習し、自らの専門の新たな位置付けや特徴を修得します。

教育の特色

POINT 1
「学問領域複合型人間発達研究」の有効性

人間の発達は、すべての人がもつかけがえのない個性を前提とする概念です。一人ひとりの人間は、様々な潜在能力をその人に固有の道筋で開花させていくのであり、それを人間の発達と呼ぶことができます。本専攻は、一筋縄では捉えられない人間の発達と向き合おうとするとき、関連する学問分野が相互につながり、それぞれに蓄積された学問的知見を有機的に結び付ける「学問領域複合型人間発達研究」こそ、発達の実像の解明に効果的であると考えています。

POINT 2
研究課題に応じた学生自身によるコースワークの設定

本専攻は、学生自身が、既成の概念にとらわれることなく、それぞれの問題意識に基づき独自の視点から人間の発達を解明することを期待しています。そのため、心理学、健康科学、体育学、芸術学、教育学等、多岐にわたる専門科目を置き、学生が研究課題に応じてそれらを組合せ、自分自身のコースワークを設定できるようにしています。

POINT 3
専攻共通科目の設置

本専攻には、自由なコースワークを支え、専門性を確保する仕組みが用意されています。「人間発達総合研究Ⅰ、Ⅱ」や「人間発達研究」などの専攻共通科目が置かれ、人間発達研究の視点や研究方法の多様性を学習するとともに、それぞれがとるべき研究上の位置や方向を理解できるようにしています。

POINT 4
コミュニティ創成に役立つ人材の養成

本専攻では、包摂する学問領域の広さから、修了生は多彩な進路で活躍することが期待されます。いずれの進路をとるにせよ、人間発達にかかる豊かな知見をもとに、多世代の人々がともに参画できる安全で安心なコミュニティの創成に役立つ人材になることが期待されます。前期課程では、人間発達という視点から21世紀の諸課題に果敢に取り組み新たな公共性の創出に貢献できる高度専門職業人を養成します。また、後期課程では、自らの専門以外の学問領域に広く目配りしながら、コミュニティ創成の研究を主体的に展開できる研究者や大学教員を養成します。

POINT 5
先端的研究に協働する「研究道場」の設置

本専攻では、人間発達研究の特定分野において、特に優れた大学教員・研究者を養成するため、本研究科の教員が共同で先端的研究を進める研究会に学生が参加し協働する体制「研究道場」を整備しています。そこで、学生が実践的な研究力量を身につけ、研究者として早期に自立できる素養を修得するようにします。

系講座

こころ系講座

こころ系講座では、心理学と健康科学を総合した観点から、心身の発達や健康、その促進・阻害要因の探究と複雑な相互関係の把握に努め、広い視野と深い専門性をもって人間発達の様相を追究します。

研究領域
- 心理発達基礎（発達障害心理学、発達心理学、教育心理学、人格心理学、発達障害臨床学、臨床心理学、カウンセリング、発達臨床心理学）
- 健康発達（健康科学、健康教育学、健康心理学、環境保健学、公衆衛生学）

表現系講座

表現系講座では、人間の感性の発現としての表現活動を教育研究対象とし、実践表現を基盤とした理論構築や、その営みによって生み出された様々な「もの」「こと」に関わる多面的な研究を行います。

研究領域
- 表現創造（作曲・編曲、器楽、舞踊学、音楽療法、即興演奏、美術・絵画表現）
- 表現文化（音楽文化史、民族音楽学、近代建築史、ファッション文化論、感性科学、社会情報学、認知科学）

からだ系講座

からだ系講座では、日常生活からレジャーやスポーツにわたる幅広い身体活動や人間行動の発達と加齢及び適応現象を教育研究対象とし、人々の発達や社会活動に関わる様々な課題について学際的な観点から研究を行います。

研究領域
- スポーツ科学領域（体育・スポーツ史、運動生理学、運動・スポーツ心理学、健康運動科学、運動処方論、スポーツ技術論、バイオメカニクス、身体システム学）
- エイジング研究領域（高齢者心理学、社会老年学、ジェロントロジー、応用生理学、レジャー・スポーツ老年学、加齢の身体運動科学）

学び系講座

学び系講座では、教育及び学習等に関わる社会的・個人的営為を対象に教育研究を行い、人間の誕生から高齢期にいたるこころ及び諸能力の発達や人間形成に関わる諸要因について理論的、実証的に探究します。

研究領域
- 教育科学（科学教育、社会認識教育、教育方法学、教育制度、教育行政、日本教育史、西洋教育史、教育哲学）
- 子ども発達（身体発育論、数理認識論、児童文学、美術教育学、発達心理学、家庭保育学、乳幼児教育学）
- 発達支援（生涯学習論、社会教育論、障害共生支援論、ボランティア学習論、ジェンダー論、自然共生論）

履修コース（前期課程のみ）

本専攻では、実践的職業人の養成を目的とする2つの特別な履修コースを設置しています。

臨床心理学コース

臨床心理士資格認定試験および公認心理師試験の受験資格を取得できるコースで、心理臨床の専門職に求められる実践力と研究能力をともに高めます。

発達支援1年履修コース

職業人として高い成果を積み重ねてきた社会人を対象とし、発達支援に関する研究分野において1年間で修士号の取得が可能なコースです。本コースでは、実践に即した研究能力を高め、さらに高度に専門的な職業人としての能力を獲得することを目指します。

取得可能な資格免許

- 幼稚園教諭専修免許状
- 小学校教諭専修免許状
- 中学校教諭専修免許状（保健体育、音楽、美術）
- 高等学校教諭専修免許状（保健体育、音楽、美術）
- 特別支援学校専修免許状
- 臨床心理士試験受験資格(注1)
- 公認心理師受験資格(注1)(注2)

(注1)臨床心理学コースのみ
(注2)学部において必要な科目を履修済みか、または受験資格特例の条件を満たす必要があります

人間発達専攻

こころ系講座

心理発達基礎

前期課程では、心理学の専門的知識や技術を持って、心の発達と様相をトータルに研究するための能力と円滑な人間関係をマネージメントできる実践力を養成します。後期課程では、前期課程（臨床心理学コースを含む）での学習・研究を踏まえ、生涯にわたる心の発達について、さらに高度な専門的知識を深めると同時に、解明を求められている研究課題について、多面的・総合的な視点から研究し、成果をあげることのできる人材を養成します

研究分野

相澤 直樹	准教授	臨床心理学、臨床心理検査（投影法）
赤木 和重	准教授	発達障害心理学
伊藤 俊樹	准教授	臨床心理学
河﨑 佳子	教　授	臨床心理学、発達臨床心理学
齊藤 誠一	准教授	発達心理学
坂本 美紀	教　授	教育心理学
谷 冬彦	准教授	人格心理学
鳥居 深雪	教　授	発達障害臨床学
林 創	准教授	発達心理学、教育心理学
山根 隆宏	准教授	発達臨床心理学、発達障害児家族支援
吉田 圭吾	教　授	臨床心理学

臨床心理学コース

相澤 直樹	准教授	臨床心理学、臨床心理検査（投影法）
伊藤 俊樹	准教授	臨床心理学
河﨑 佳子	教　授	臨床心理学、発達臨床心理学
山根 隆宏	准教授	発達臨床心理学、発達障害児家族支援
吉田 圭吾	教　授	臨床心理学

健康発達

心身の健康を支える体や心の仕組みとその発達や、様々な環境要因が人の健康や発達に及ぼす影響とそのプロセスについて研究及び教育を行います。さらにその有効性を検証し、広く普及する活動を実施しています。

研究分野

加藤 佳子	教　授	健康教育、健康心理学
中村 晴信	教　授	公衆衛生学、行動医学、生理人類学
古谷 真樹	准教授	睡眠心理学、生理心理学、健康心理学
村山 留美子	准教授	環境保健学、環境リスク学

研究紹介

山根 隆宏 准教授

専門：発達臨床心理学、発達障害児家族支援

家族の視点から発達障害児・者支援を研究する

これまで発達障害児・者や家族の支援について研究を行ってきました。その中でも中心的なテーマは親や家族についてです。障害のある子どもを育てる中で、親や家族は様々な不安や負担感を経験します。障害をいかに認識し受け止めるかという葛藤にも直面します。一方で困難な子育ての中から意味を見出したり、自身の成長を実感する方もいます。多様な調査を通じて親や家族の体験に迫り、どのような家族支援が必要なのかを検討しています。現在はオンラインの情報や交流が親や家族にもたらす影響や、オンライン支援の可能性を探っています。その他にも実践現場と協力して発達障害児の社会性や情動調整の向上を目指したプログラムの開発に取り組んでいます。

表現系講座

表現創造

芸術と生活と人生を新たな視点で統合することを目指し、地域社会において芸術に関わる生涯教育のファシリテーターや指導者の育成、あるいはそれと関係した音楽療法などの実践研究、及びコミュニティアートとしての新しい芸術形態の創造開発を目的とした教育研究を行います。

研究分野

岡崎 香奈	准教授	音楽療法、即興演奏
岸本 吉弘	准教授	絵画表現
関 典子	准教授	舞踊学、コンテンポラリーダンスの創作と研究
田村 文生	准教授	作曲、編曲、西洋芸術音楽を中心とした作品研究
坂東 肇※	教　授	器楽（ピアノ、室内楽）

※2019年3月退職予定

表現文化

表現を、人間が意識するかどうかに関わらず生み出してきた文化として捉え、歴史的・社会的に探求します。文献調査や、実験、フィールドワークに実際の表現活動といった様々な研究へのアプローチの中で、表現文化の過去・現在・未来に対する深い認識と柔軟で創造的な構想力を養い、さらに、その認識や構想を他者に向かって分かりやすく説得的に伝えることのできる論理的な表現力を涵養します。

研究分野

梅宮 弘光	教　授	近代建築史
大田 美佐子	准教授	音楽文化史、音楽美学
小髙 直樹	教　授	感性科学、図形科学
谷 正人	准教授	音楽民族学
田畑 暁生	教　授	社会情報学、映像論
野中 哲士	准教授	認知科学、生態心理学
平芳 裕子	准教授	表象文化論、ファッション文化論

研究紹介

平芳 裕子 准教授

専門：表象文化論、ファッション文化論

ミュージアムにおけるファッション展の国際的展開

近年、美術館でファッション展がさかんに開催されるようになりました。しかし本来、店舗で販売される「ファッション」が初めて美術館で展示された時には大きな批判が巻き起こったものです。ファッションがいかに芸術的価値を獲得し、文化的・社会的な意義を与えられてきたのか、その歴史を明らかにすることが現在の私の研究テーマです。特に日本のファッション展は、アメリカのミュージアムから大きな影響を受けてきました。そのため、日本とアメリカのファッション展の影響関係を探るために、2018年度夏からNY州立ファッション工科大学の客員研究員として、同大学の研究者や附属美術館のキュレーターとともに共同研究を行います。

人間発達専攻

からだ系講座

スポーツ科学領域

身体運動のメカニズムや心理的・生理的効果について、運動心理学、身体コンディショニング、スポーツバイオメカニクス、ストレス生理学、身体運動制御論、運動処方論の各面から、また、運動・スポーツの文化・歴史及び振興施策について、スポーツ文化史、生涯スポーツ論の各面から学び、身体行動に関する高度な知識と研究手法を修得します。

研究分野

- 秋元 忍 准教授　体育・スポーツ史
- 河辺 章子 教　授　運動生理学（身体運動制御／運動学習）
- 木村 哲也 准教授　身体システム学、応用生理学
- 佐藤 幸治 准教授　運動生化学、スポーツ医学
- 髙田 義弘 准教授　運動生理学（身体コンディショニング）
- 髙見 和至 教　授　運動・スポーツ心理学
- 前田 正登 教　授　スポーツバイオメカニクス、スポーツ工学

エイジング研究領域

社会科学及び自然科学の両面から現実の様々な人間行動を多角的に捉えるために老年学（ジェロントロジー）、運動老年学、社会学、応用生理学、身体運動科学、行動適応学などの多分野の研究領域を設け、人間行動の加齢に伴う発達や環境への適応に関わる課題を学際的観点からアプローチできる人材を養成します。

研究分野

- 岡田 修一 教　授　加齢の身体運動科学
- 片桐 恵子 准教授　社会心理学、社会老年学
- 近藤 徳彦 教　授　応用生理学、環境生理学、運動生理学
- 長ヶ原 誠 教　授　生涯スポーツ振興論、レジャー・スポーツ老年学
- 原田 和弘 准教授　老年行動学、健康スポーツ論
- 増本 康平 准教授　高齢者心理学、実験心理学、認知心理学

研究紹介

佐藤 幸治 准教授

専門：運動生化学、スポーツ医学

運動は本当に体に良いの？を科学的に検討する

私はスポーツ医学・生理・生化学を専門にしており、運動でなぜメタボリックシンドロームが予防し、改善するのかを体の中の血液、唾液、尿および筋肉、や心臓等の組織中のタンパク質、遺伝子を解析して、どのような運動が良いのか、どれくらいの運動頻度や強度が良いかの研究をしています。また、小児期に発症する慢性疾患の1型糖尿病に対しての新たな運動のガイドライン作成のため、運動によって1型糖尿病患者さんに起こる様々な問題を解決する為に、遺伝子やタンパク質レベルで研究を行っています。その他にもスポーツ・健康科学の分野で、女性アスリートのコンディショニング指標の開発、スポーツ栄養学の分野で、高齢者の筋力・筋量および認知機能改善のサプリメント開発等、様々な研究を行っています。

学び系講座

教育科学

今日の社会が直面する様々な教育課題への対応を念頭におき、高度な専門知識や技術をあわせもつ教育現場のリーダーとして貢献できる人材（研究者、教員、教育行政職等）を養成します。

研究分野

- 稲垣 成哲 教　授　科学教育
- 奥山 和子 講　師　日本語教育、年少者日本語教育、留学生教育、異文化間教育
- 川地 亜弥子 准教授　教育方法学
- 船寄 俊雄 教　授　日本教育史、教育学
- 山口 悦司 准教授　科学教育
- 山下 晃一 准教授　教育制度論
- 吉永 潤 教　授　社会認識教育論
- 渡部 昭男 教　授　教育行政学（地域教育学、特別ニーズ教育）
- 渡邊 隆信 教　授　西洋教育史、教育哲学

子ども発達

乳幼児から青年期の子どもを対象に、心やからだの発達と教育、言語・音楽・造形表現の発達と教育、数理認識発達と教育に関する専門領域を学び、子どもの教育と発達を総合的に研究します。

研究分野

- 岡部 恭幸 教　授　数理認識論、数学教育
- 北野 幸子 准教授　乳幼児教育学、保育学
- 木下 孝司 教　授　発達心理学
- 國土 将平 教　授　身体発育発達、保健体育科教育、健康・スポーツ測定
- 勅使河原 君江 准教授　美術教育
- 中谷 奈津子 准教授　保育学、家族関係学
- 長谷川 諒 特命講師　音楽教育学、音楽教育哲学
- 目黒 強 准教授　児童文学、国語教育

発達支援

現代社会における人間形成機能の社会的、教育的な開発支援を研究対象に、アクションリサーチを方法論とする実践的な研究を行います。

研究分野

- 稲原 美苗 准教授　ジェンダー理論、現象学、臨床哲学
- 清野 未恵子 准教授　自然共生社会、野生動物管理、ESD
- 津田 英二 教　授　社会教育論、インクルーシヴ社会支援論
- 松岡 広路 教　授　生涯学習論、福祉教育・ボランティア学習論

発達支援1年履修コース

- 稲原 美苗 准教授　ジェンダー理論、現象学、臨床哲学
- 加藤 佳子 教　授　健康教育、健康心理学
- 清野 未恵子 准教授　自然共生社会、野生動物管理、ESD
- 津田 英二 教　授　社会教育論、インクルーシヴ社会支援論
- 松岡 広路 教　授　生涯学習論、福祉教育・ボランティア学習論

研究紹介

北野 幸子 准教授

専門：乳幼児教育学、保育学

保育者の専門性と保育領域の専門性の確立に関する研究

この20年、乳幼児期の教育の独自性と重要性が脚光をあびています。脳科学や社会経済学の分野でも将来への肯定的影響や教育格差是正の観点からその有用性が明らかにされています。本学大学院の乳幼児教育学（北野）研究室では、実践現場と協同しながら、乳幼児教育の独自性と専門性について研究をすすめています。具体的な実践開発や研修開発も行っています。実践開発研究の成果としては、神戸市立御影幼稚園との共同研究が2017年事通信社の第32回教育奨励賞の優秀賞（文部科学大臣奨励賞）の受賞、研修開発研究の成果としては、全国保育士会と連携した「キャリアアップ検討特別委員会報告書」（2017）での提案、兵庫県や、神戸市、舞鶴市、堺市などの保育者研修の開発およびその研究を行っています。

DEPARTMENT OF
HUMAN ENVIRONMENTAL SCIENCE

人間環境学専攻

専攻長のメッセージ

人間環境学専攻長
近江戸 伸子 教授

人間環境学専攻は、人間の発達を促し、支え、助けるために、どのような環境を、どのように形成し、維持すればよいのか、という問いを立て、その解明に取り組んでいます。この課題に立ち向かうには、多様な分野からのアプローチが必要です。このため、本専攻では、自然環境、数理情報環境、生活環境、社会環境という各分野の専門知識をもとに、この課題に取り組みます。前期課程が目的とするのは、豊富な専門知識とそれを応用する能力、そして実践行動力を有し、政府、自治体、民間企業、NPO などの多様な領域で人間環境のいっそうの改善のために活躍できる人材の育成です。後期課程は、人間環境に関する高度な専門学識と創造的な研究能力を備える自立した研究者、または研究能力に加えて実践的な教育開発能力をもつ大学教員などの養成を目的としています。さらに後期課程においては、より幅広く環境問題にアプローチするため、学外研究機関の研究者で構成される環境先端科学講座を設置しています。

教育の特色

POINT 1

専門性を高める 4 つの履修コースと学際的研究を支援する教育体制

本専攻がテーマとする「人間の発達を促し、支え、助けるための環境」を解明するには、多様な分野からのアプローチが必要です。そのため、人間環境学専攻では、人間環境としての自然を対象とし、その成り立ちを明らかにしようとする「自然環境」、数理科学を基礎にして情報環境を研究対象とする「数理情報環境」、日常生活の分析・理解から環境のあり方を追求する「生活環境」、人間を取り巻く社会的な環境の諸矛盾の克服を目指す「社会環境」という4つの履修コース（前期課程）と教育研究分野（後期課程）を設置しています。また、所属する履修コースや教育研究分野以外の授業の履修を可能とし、学生が研究課題に応じて、特定の分野の範囲内にとどまらずに、自分自身のコースワークを設定できるようにしています。

POINT 2

専攻共通科目の設置

本専攻には、自由なコースワークを支え、専門性を担保する仕組みが用意されています。
まず、専攻共通科目である「人間環境学相関研究」を設置することで、人間環境学に関する研究の視点や方法の幅の広さを学ぶ機会を提供し、その多様性のなかで、学生それぞれがとるべき研究上の位置や方向を検討できるようにしています。

POINT 3

豊富な専門知識をベースとした多彩で実践的に行動できる人材の養成

本専攻の修了生は、人間環境に関わる豊富な専門知識とそれを応用する能力をもとに、実践的に行動する力を有し、多様な進路で活躍することを期待されます。
前期課程では、人間環境の改善のため、政府、自治体、民間企業、NPOなど、多様な分野で活躍できる人材を養成します。
後期課程では、人間環境に関する高度な専門学識と創造的な研究能力を備える自立した研究者、研究能力に加えて実践的な教育開発能力をもつ大学教員などを養成します。

教育研究分野

自然環境

自然環境分野では、自然環境に関わる物質、生命、地球表層から宇宙にいたる幅広い事柄について、環境汚染、気候変動、生物多様性などの人間生活と密接に関係する環境問題に関して考究します。

研究領域
- 素粒子物理学、宇宙物理学、惑星環境物理学、環境地質学、分子生物学、生物有機化学、分析化学、高分子化学、光合成酵素科学、進化生態学、植物生態学、水域生態学

数理情報環境

数理情報環境分野では、数理科学に対する高い専門性をもとに、多様化・高度化した情報環境について解析し、情報環境に関わる諸問題を解決するため、高度な数理的理論と手法について研究します。

研究領域
- 情報論理学、計算機代数、応用解析学、トポロジー、数理統計学、応用統計学

生活環境

生活環境分野では、私たちの生活環境を形成する生活空間、生活技術、生活資源の 3 領域において、加速度的に変化し続け、複雑化する諸問題を、社会科学、人文科学、自然科学の方面から考究します。

研究領域
- 衣環境学、感性工学、緑地環境学、環境バイオテクノロジー、環境経済学、食環境学、環境システム工学、生活空間計画、ヒューマンエレクトロニクス、バイオメカニクス

社会環境

社会環境分野では、経済学、政治学、歴史学、地理学、法律学、社会学など従来の社会科学の研究成果を駆使できる基本的な能力とともに、人間が発達する環境としての社会のあり方を探求します。

研究領域
- 社会文化環境論、社会保障、社会政策、途上国政治経済、社会規範論、人文地理学、地域社会論、社会思想

環境先端科学（後期課程の連携講座）

体系的教育を行う大学院と環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関の連携を通じて、次代の環境科学について探求します。

研究領域
- 大気化学、炭素循環、生物地球化学、マイクロ流体工学、環境分析化学、ナノバイオ計測工学

取得可能な資格免許

- 中学校教諭専修免許状（理科、数学、家庭、社会）
- 高等学校教諭専修免許状（理科、数学、家庭、公民）

人間環境学専攻

教育研究分野

自然環境

自然環境分野では、自然環境の成り立ちや、環境と人間の相互作用に関する基礎的研究を行う能力を有し、自然科学的立場から人間環境の具体的諸課題の解決を目指す人材を養成します。そのために、自然環境に関わる物質、生命、地球表層から宇宙にいたるまでの幅広い事柄について、基礎的な理解を深めるとともに、環境汚染、気候変動、生物多様性などの人間生活と密接に関係する環境問題に関して深く考究します。

研究分野

- 青木 茂樹 教授　素粒子・宇宙線物理学
- 蘆田 弘樹 准教授　光合成酵素、代謝制御学
- 伊藤 真之 教授　宇宙物理学、科学教育
- 丑丸 敦史 教授　植物生態学、生物多様性科学
- 江原 靖人 准教授　生物有機化学
- 大串 健一 准教授　地球環境学、地球化学、地質学、古生物学
- 佐藤 春実 教授　高分子化学、物理化学
- 高見 泰興 准教授　進化生態学
- 谷 篤史 准教授　惑星環境物理学
- 寺門 靖高※ 教授　環境地球化学
- 源 利文 准教授　水域生態学、環境生理学

※2019年3月退職予定

環境先端科学（後期課程の連携講座）

体系的教育を行う大学院と環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関の連携を通じて、次代の環境科学を担う人材を養成します。

研究分野

- 斉藤 拓也 准教授　大気化学、生物地球化学
- 遠嶋 康徳 教授　大気化学、炭素循環
- 永井 秀典 准教授　マイクロ流体工学
- 脇田 慎一 教授　環境分析化学、ナノバイオ計測工学

数理情報環境

数理情報環境分野では、数理科学に対する高い専門性を身に付け、情報環境の多様化・高度化に対応して情報に関わる諸問題に有効な解決策を提供することのできる人材を養成します。そのために、伝統的な数学に根ざしてはいるが、特に情報環境に関わる諸側面の解明に有効と思われる数理科学の諸分野を重視した授業科目を通して、複雑に入り組んだ情報環境に対処するための高度な数理的理論と手法を身につけます。

研究分野

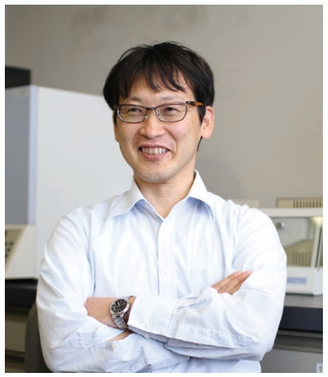
- 稲葉 太一 准教授　数理統計学、応用統計学、データ解析
- 桑村 雅隆 教授　応用解析学
- 阪本 雄二 准教授　数理統計学
- 髙橋 真 教授　情報論理学
- 長坂 耕作 准教授　計算機代数
- 宮田 任寿 教授　幾何学的トポロジー

研究紹介

大串 健一 准教授

専門：地球環境学、地球化学、地質学、古生物学

深海底堆積物から過去の地球環境変動を復元する



大気CO_2の増加が地球温暖化の原因とされ、喫緊の地球規模課題になっています。温暖化は異常気象など様々な環境問題の原因にもなります。この問題に対してパリ協定が発効される等、国際社会の取り組みがなされていますが、その政策決定上、大前提となるのが科学者による地球環境の将来予測です。しかし地球環境システムの理解はまだ充分とは言えません。気候の将来予測のためには地球環境の長期変動を理解する必要があり、過去の長期変動を記録している深海底堆積物や極地氷床の研究が重要な役割を担っています。私の研究室では、深海底堆積物に含まれる物質や微化石について地球化学・古生物学的手法により分析し環境復元の研究に取り組んでいます。地球環境に興味のある方はぜひいっしょに研究しませんか。

生活環境

現代は「流動化」の時代などと呼ばれます。いいかえれば現代とは加速度的に変化し続ける時代でもあります。そこでは日常の生活さえ刻々と姿を変えており、日々新たな課題が生じています。そこで生活環境分野では、私たちの生活環境を形成する生活空間、生活技術、生活資源の3領域について、社会科学、人文科学、自然科学と、文系・理系の両方にわたる研究手法を駆使して、今日的な課題を取り上げ、分析し、問題解決する能力を養成します。

研究分野

- 井上 真理 教授　衣環境学、感性工学
- 大野 朋子 准教授　緑地環境学、造園学
- 近江戸 伸子 教授　環境バイオテクノロジー
- 佐藤 真行 准教授　環境経済学、環境政策論
- 白杉 直子 教授　食環境学
- 田畑 智博 准教授　環境システム工学
- 平山 洋介 教授　住宅・都市計画
- 福田 博也 准教授　生体電子計測、ヒューマンエレクトロニクス
- 矢野 澄雄※ 教授　振動工学、バイオメカニクス

※2019年3月退職予定

社会環境

現代社会の諸課題を解明するには、既存の社会諸科学の成果だけでは不十分です。現代社会のあるべき方向を模索するためには、一人ひとりの人間の発達を基軸にすえながら、世界規模で進む歴史的な変動のダイナミズムを明らかにするための新しい科学が求められています。そこで社会環境分野では、経済学、政治学、歴史学、地理学、法律学など従来の社会科学の研究成果を駆使できる基本的な能力とともに、人間が発達する環境としての社会のあり方を探求できる実践的な構想力を育成します。

研究分野

- 浅野 慎一 教授　社会文化環境論、社会学
- 井口 克郎 准教授　社会保障、福祉国家、災害被災者の生活問題
- 岩佐 卓也 准教授　社会政策
- 太田 和宏 准教授　途上国政治経済
- 岡田 章宏 教授　社会規範論、イギリス統治構造論
- 澤 宗則 教授　人文地理学、地域社会論
- 橋本 直人 准教授　社会思想、社会学史
- 山崎 健※ 教授　都市地理学

※2019年3月退職予定

プロジェクト研究スタッフ

人間環境学専攻では、様々な環境問題に多様な分野からアプローチするため、プロジェクトを立ち上げ取り組んでいます。

研究分野

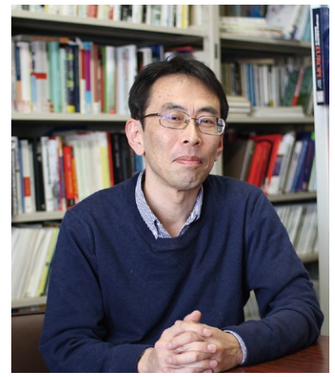
- 古川 文美子 特命助教　地域資源保全

研究紹介

岩佐 卓也 准教授

専門：社会政策

ドイツの労使関係、労働協約はどう変わってゆくのか



私はドイツの労使関係に関する調査、分析を行っています。2015年には単著『現代ドイツの労働協約』を刊行しました。ドイツの労働協約システムは、労働者の労働条件を安定的に規制する模範的なものとして日本ではしばしば紹介されてきましたが、90年代以降それは大きな変容を被っています。たとえば、ドイツでは企業の事情に応じて横断的労働協約の適用を除外することが広く行われています。従来個別企業にとっては変更上可能な与件であった労働協約上の労働条件は、そうしたルールとしての「硬さ」を失い、融通可能なより「柔らかい」ものへと変わっているのです。こうしたさまざまな変容をできるだけ具体的に明らかにすることを通じて、労働問題をより深く捉える視点を構築してゆきたいと思っています。

社会貢献・地域貢献

大学と社会をつなぐプラットフォーム「発達支援インスティテュート」

人間発達環境学研究科の附属研究施設である発達支援インスティテュートは、「人間発達に関する教育研究、実践的研究を行うとともに、地域との連携を進め、多層・多元的なコミュニティの創成及び社会貢献に資すること」を目的として設置されました。本研究科が対象とする現代の問題に即してこの目的を実現するため、以下の5つのユニットから構成されています。

ヒューマン・コミュニティ創成研究センター

詳細は、http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/hc-center

ヒューマン・コミュニティ創成研究センターでは、本研究科で蓄積されてきた研究成果と、地域社会の実践活動とを融合させながら、現場に即した実践的研究活動を行っています。地域組織、NPO、NGO、企業、行政、学校等の人々と連携しながら、研究・実践を深め、人間らしさにあふれたコミュニティの創成を目指しています。

活動例

■ESDネットワーク支援プロジェクト

持続可能な開発のための教育（ESD）に関心をもつ地域社会の団体・組織のネットワーク化を促進します。北東日本大震災で大きな被害を受けた大船渡市赤崎町の支援活動やハンセン病療養所邑久光明園（瀬戸内市）の協力のもとで「持続可能な島づくりプロジェクト」等のプロジェクトを実施しています。

■女性・子ども支援をしているNPOでの哲学カフェプログラム

WACCA（女性・シングルマザーとその子どもの居場所と仲間作りの場）の支援者向けの哲学カフェを2017年6月より1、2カ月に1回の頻度で開催しています。主に日常生活で抱えているジェンダー問題をテーマに対話をしています。

■ 障害共生支援プロジェクト

「のびやかスペース あーち」や「アゴラ」などの学内施設をフィールドとし、学内外の研究員、障害のある人々を排除しないインクルーシヴな社会づくりに関わる実践・研究・教育を行っています。

■農村部における自然共生社会の探求

私たち人も動物たちもみなが幸せに暮らすことができる社会づくりに向けて、野生動物管理という生態学的な観点と、私たちの暮らし方を見直すという社会教育学的な観点の両面から、研究と実践を行っています。

心理教育相談室

詳細は、http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/node/519

心理教育相談室は、地域住民を対象とする心理相談機関と臨床心理士養成に関わる実習機関をかねて、これまで活発な相談援助活動を実施してきました。臨床心理学コース（前期課程）の大学院生が臨床心理士の資格を持つ本研究科教員による指導のもと、継続的な心理相談活動に従事しています。

活動例

■ 臨床心理面接・プレイセラピー

心理教育相談室には、子どもからお年寄りまで様々な年代や立場の人が相談に訪れており、主に成人を対象とした面接相談である臨床心理面接や子どもを対象とするプレイセラピーを中心に、年間約 1,000件の相談面接を実施しています。

■ 臨床心理学的地域支援

心理教育相談室担当の本研究科教員は様々な領域において地域貢献・社会貢献活動をおこなっています。地域の学校におけるスクールカウンセリング、地方自治体や福祉法人の研修会における講師、地域住民を対象とした巡回支援等に取り組んでいます。平成28年度には「のびやかスペースあーち」との連携で子育て支援セミナーを開催しました。

サイエンスショップ

詳細は、http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/scishop

サイエンスショップは、地域社会の市民が科学技術をより身近に感じ、「科学」という営みを楽しむ文化をひろげてゆくことを目指し、市民と専門家（科学者、技術者など）の対話と協働の場づくり、市民の様々な科学活動への支援、地域の学校や社会における科学教育に対する支援など実践的な活動に取り組んでいます。

活動例

■ 社会における市民の科学活動支援

サイエンスカフェは、街のカフェなどで、科学者等の専門家と市民が科学・技術などに関する話題について語るイベントです。「サイエンスカフェ神戸」を開催するほか、兵庫県内を中心に各地で市民によるサイエンスカフェの企画・開催を支援しています。

教育連携推進室

詳細は、http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/node/4203

近年、大学に対して期待する声が高まっている、初等中等教育との連携に係る社会貢献へ要望と、本研究科に長年にわたり蓄積された学問的成果を踏まえ、教育連携推進室は、高等学校をはじめ小学校、中学校、特別支援学校、教育委員会等と協力し、高大連携事業の推進や、初等中等教育に対する支援及び学校教育・社会教育における連携事業を行っています。

活動例

■ 参画型実践研究を基盤とする高度教員養成プログラム

知識基盤社会をリードできる高度な能力を備えた教員の養成は極めて重要な課題であり、その解決に資するため、附属校園等を活用したアクションリサーチによる実証的研究を通して、修士課程レベルにおける高度な教員養成を目指します。

アクティブエイジング研究センター

詳細は、http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/node/3705

人口の高齢化は解決すべき重要な社会的課題であり、世界保健機関（WHO）が掲げる「アクティブエイジング（活力ある高齢化）」はこの課題解決に向けた指針として注目されています。
本センターは、研究科に蓄積された研究成果を踏まえ、この分野における先端的研究の創発とその成果の社会的還元を通じ、高齢化に係る課題解決に資することを目的とし、この研究のアジアのHubを目指しています。

活動例

■ アクティブエイジングを学際的・国際的に検討するプロジェクト

- 鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト
- 住民ネットワーク形成の客観的検証方法の確立
- 男女の違いや個人差を考慮した健康増進支援プロジェクト
- 高齢者の身体システム機能維持・向上への学際的プロジェクト
- 都市住居高齢者の日常活動の国際比較
- 超高齢化社会を見据えた持続可能なごみ処理施策の提案
- 関西ワールドマスターズゲームズ2021レガシー創造支援研究
- 高齢期の意思決定バイアスの解明と自律に向けた生涯学習プログラムの開発
- マスターズ甲子園によるアクティブエイジング活性化の検証
- サードエイジ・プロジェクト
- 異世代間交流のプロジェクト

国際学術交流

人間発達環境学研究科は、世界各国の教育・研究機関と積極的に交流を行っています。海外から多くの研究者が本研究科を訪問し、学生も主体的に学術交流に関わり、研究集会を開催しています。また、学生は、神戸大学や本研究科が協定を結んだ海外の教育・研究機関等に派遣され、現地の学生とともに、調査研究、研修等を積極的に行っています。さらに、講義や演習の一環として、いくつかの具体的テーマを掲げ、海外の学生、研究者、実践家等と問題意識を共有しながら調査研究や学術交流を進めるスタディツアーにも積極的に取り入れています。

学術Weeks

詳細は、http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/aew

学術 Weeksは、2008年より本研究科の国際交流推進の一環として設置され、海外から多くの研究者を招聘し、研究集会等の学術交流を行っています。教員のみならず、大学院生や学部生も積極的に参加し、領域横断的な学術交流の場となっています。学術Weeksの主な目的は、多くの大学院生が、様々な分野の国際交流を通して、自分の研究を見つめ直し、研究会の企画、運営、発表などの多くのスキルを習得することです。学際的・横断的研究を積極的に進める本研究科において、大学院生が多様な研究領域に接する有意義な機会となっています。

国際シンポジウム「痛みの表現と当事者研究」

オーガナイザー：稲原 美苗 准教授 （ジェンダー理論、現象学、臨床哲学）

ロンドンを中心に活動している写真アーティストDeborah Padfield氏（The Slade School of Fine Art, University College London）を迎えて、疼痛表現の多様性や患者・医療者間のコミュニケーション向上に関するシンポジウムを開催しました。事前のワークショップにて、異なる疼痛を抱えた3人の患者はPadfield氏と共に造形制作を通して、痛みの当事者研究をし、疼痛をアート化しました。それらの作品をシンポジウムで発表し、参加者全員で議論を行いました。

国際学術セミナー「動植物を取り巻く環境変化と共生」

オーガナイザー：近江戸 伸子 教授 （環境バイオテクノロジー）

学術交流協定校のドレスデン工科大学からWanke博士とZierau博士を招き、学術セミナーを行いました。Wanke博士から「200年にわたるアジサイの育成の歴史とドイツの遺伝資源バンクの設立」について、Zierau博士からは「植物由来の代謝産物を用いた環境安全性試験」についてお話しいただきました。参加した学生にとっては、今回のテーマについて新しい知見に触れ、国際研究協力の重要性に気付くよい機会となりました。

スタディツアー

実践的解決能力の育成を目的として、アクションリサーチ型実践教育（スタディツアー、フィールドワーク学習等）を実施しています。

フィリピン大学セブ校（フィリピン）との学術交流

太田 和宏 准教授 （途上国政治経済）

フィリピン大学セブ校を訪れ、「戦後意識に関する日本とフィリピンの比較」をテーマとする共同調査討論会を10日間行いました。70余年前に日本はアジア諸国を侵略し、軍事占領しました。そうした過去を「加害者としての日本」と「被害者としてのフィリピン」がどのように記憶し、認識しているかについて、事前に調査準備をして相互に発表をしあい、意見交換をしました。歴史的認識の持ち方、過去の記憶の仕方に大きな文化的違いを感じる貴重な機会でした。もちろんこのプログラムを通じて両国の学生がより親密な関係を築けたことは言うまでもありません。

ロンドンでの自閉スペクトラム症（ASD）に関する学術交流 ー理論と実践の両輪で

鳥居 深雪 教授 （発達障害臨床学）

まず、ロンドン大学のDr. Hamiltonとの研究交流を行いました。日本側からは2本の研究発表を行い、Dr. Hamiltonからは現在取り組んでいるバーチャルリアリティ（VR）を利用した研究について解説していただきました。次に、ASDの子どもたちに、応用行動分析（ABA）に基づいた教育実践を行っていることで有名なTreehouse Schoolを訪問しました。Treehouse Schoolの教育実践についてのレクチャーを受け授業を参観しました。短期間でしたが、イギリスでのASD研究のレベルの高さを感じ、多くの学びを得た学術交流でした。

海外協定校との学術交流

神戸大学または研究科は、海外の大学等の教育研究機関との間で学術交流協定を締結し、学術及び教育上の様々な分野において、研究者や学生の交流をはじめとして教育・研究に関する交流活動を行っています。

国名/地域		教育研究機関	
シンガポール	Singapore	南洋理工大学	Nanyang Technological University
大韓民国	Korea	公州教育大学校 *	Gongju National University of Education *
		ナザレ大学 *	Korea Nazarene University *
		釜山国立大学 *	Pusan National University *
		ソウル国立大学	Seoul National University
中華人民共和国	China	北京師範大学 *	Beijing Normal University*
		華東師範大学 *	East China Normal University*
		南京大学	Nanjing University
		上海交通大学	Shanghai Jiao Tong University
		香港大学 *	The University of Hong Kong *
		清華大学	Tsinghua University
		武漢大学	Wuhan University
		浙江大学 *	Zhejiang University *
台湾	Taiwan	国立台湾大学	National Taiwan University
		国立政治大学	National Chengchi University
フィリピン	Philippines	サンベーダ大学 *	San Beda College *
モンゴル	Mongolia	モンゴル国立大学	National University of Mongolia
オーストラリア	Australia	クイーンズランド大学	The University of Queensland
		西オーストラリア大学	The University of Western Australia
		ウーロンゴン大学	University of Wollongong
米国	USA	ピッツバーグ大学	University of Pittsburgh
カナダ	Canada	オタワ大学	University of Ottawa
イタリア	Italy	ヴェネツィア大学	Ca' Foscari University of Venice
英国	United Kingdom	ボローニャ大学	University of Bologna
		ロンドン大学	University of London
オーストリア	Austria	FHヨアネウム応用科学大学 *	FH Joannrum University *
		ヨハネケプラー大学 *	Johannes Keplaer University *
		グラーツ大学	University of Graz
オランダ	Netherlands	ライデン大学	Leiden University
スイス	Switzerland	バーゼル大学	University of Basel
スペイン	Spain	バルセロナ大学	University of Barcelona
チェコ	Czech	カレル大学	Charles University
ドイツ	Germany	キール大学	Kiel University
		トリーア大学	Trier University
		ハンブルク大学 *	Universitat Hamburg *
フランス	France	リヨン高等師範学校 *	Ecole Normale Supérieure de Lyon *
		リール第3大学 *	Université Lille 3 *
		パリ第2（パンテオン・アサス）大学	Université Paris 2 Panthéon-Assas
		パリ・ナンテール大学	Université de Paris Nanterre
ブルガリア	Bulgaria	ソフィア大学	Sofia University St. Kliment Ohridski
ベルギー	Belgium	ブリュッセル自由大学	Vrije Universiteite Brussel
ポーランド	Poland	ヤゲウォ大学	Jagiellonian University in Krakow
		ニコラウス・コペルニクス大学	Nicolaus Copernicus University in Toruń
リトアニア	Lithuania	ヴィリニュス・ゲディミナス工科大学 *	Vilnius Gediminas Technical University *
ロシア	Russia	サンクトペテルブルク大学	Saint-Petersburg State University

* 人間発達環境学研究科が締結する協定校

入試日程・データ

■2019年度入試日程一覧

博士課程前期課程

専攻・コース	募集人員	出願期間		合格発表	入学手続期間
人間発達専攻(1年履修コース以外)	51人	2018年7月31日～8月6日	2018年9月20日、21日	2018年10月5日	2019年 3月中旬予定
人間環境学専攻	36人	2018年7月31日～8月6日	2018年9月20日	2018年10月5日	
人間発達専攻1年履修コース	4人	2018年11月30日～12月6日	2019年1月5日、6日	2019年1月21日	

(注) 募集人員には、社会人特別入試若干人及び外国人留学生特別入試若干人を含む。
人間発達専攻(1年履修コース以外)の募集人員51人には、臨床心理学コースの募集人員10人程度を含む。

博士課程後期課程

専攻		募集人員	出願期間	試験期間	合格発表	入学手続期間
人間発達専攻		11人	2019年1月21日～ 25日	2019年3月1日	2019年3月7日	2019年 3月中旬予定
人間環境学専攻	Ⅰ期	6人	2018年7月17日～ 23日	2019年8月23日	2018年9月19日	
	Ⅱ期		2019年1月21日～ 25日	2019年3月1日	2019年3月7日	

(注) 募集人員には、進学者及び外国人留学生特別入試若干人を含む。

■志願者・合格者・入学者数

博士課程前期課程

専攻・コース	2018年度			2017年度			2016年度		
	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
人間発達専攻(1年履修コース以外)	76人	57人	53人	86人	51人	44人	89人	54人	48人
人間環境学専攻	42人	39人	39人	41人	37人	34人	44人	37人	33人
人間発達専攻1年履修コース	5人	4人	4人	6人	5人	5人	6人	4人	4人

(注) 2016年度の人間発達専攻志願者数は、第2次募集の人数を含む。

博士課程後期課程

専攻	2018年度			2017年度			2016年度		
	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
人間発達専攻	15人[7人]	11人[6人]	11人[6人]	17人[6人]	12人[5人]	12人[5人]	17人[6人]	11人[5人]	11人[5人]
人間環境学専攻(Ⅰ期・Ⅱ期合計)	7人[4人]	6人[4人]	5人[4人]	9人[6人]	7人[5人]	6人[4人]	8人[3人]	8人[3人]	6人[2人]

[ ]内は本研究科前期課程からの進学者数

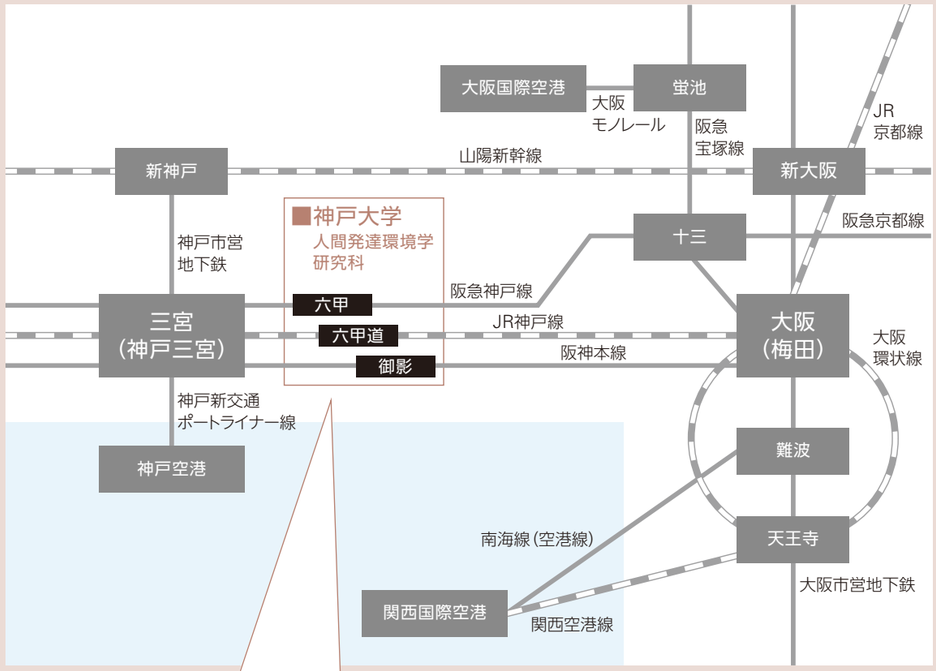
■募集要項・過去問題閲覧方法

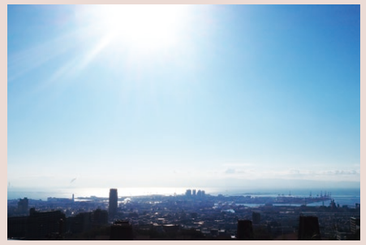
募集要項の入手方法や過去問題の閲覧方法等の
詳細については以下のウェブサイトに掲載されています。
【博士前期】http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/node/1244
【博士後期】http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/node/1246

■入試に関する問い合わせ

神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教務学生係
メール：hudev-kyomu@office.kobe-u.ac.jp
電　話：078-803-7920

ACCESS アクセス





■交通アクセス

最寄り駅は、阪急電車「六甲」駅または
JR「六甲道」駅または阪神電車「御影」駅。

最寄り駅から神戸市バス36系統
「鶴甲団地」行(「鶴甲2丁目止」行)に乗車、
「神大人間発達環境学研究科前」で下車。

神戸大学大学院 人間発達環境学研究科
〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11 TEL 078-803-7905(代表)　FAX 078-803-7939　http://www.h.kobe-u.ac.jp

2018年6月発行